

名古屋ボストン美術館館長インタビュー さよなら 名古屋ボストン美術館



名古屋ボストン美術館館長
馬場 駿吉

1932年11月、名古屋市東区生まれ。85歳。57年、名古屋市立大医学部卒。同耳鼻咽喉科教授を経て91～95年、同市立病院院長。俳人でもあり美術の造詣も深く、滝口修造、渋谷竜彦、土方巽らとも親交。句集、エッセー多数。2006年から名古屋ボストン美術館館長。

世界屈指のコレクションを誇る
米国・ボストン美術館の姉妹館として一九九九年、名古屋市・金山に創設された「名古屋ボストン美術館」は二〇年の契約期間が終了し十月八日、閉館する。ボストン美術館の収蔵品から五〇回以上の展覧会を催し、来館者は計四五〇万人を超えた。世界的にも珍しい姉妹館という立場ながら、日本の浮世絵を含め貴重な名品を名古屋市民らに紹介し、本格アートの魅力を堪能させてくれた功績は大きい。後半の一二年間、館長を務めた馬場駿吉さん（八十五歳）に話を聞いた。

——名古屋にボストン美術館の姉妹館が生まれた理由は。

馬場 財閥や個人ではなくボストン市民の支持によって一八七六年開館したボストン美術館は、多くの寄贈により収蔵品は五〇万点超といわれますが、美術ばかりでなく百科事典的とも言われる多様さ。運営する財団が、その頃、海外に姉妹館を設立して収益を得ようとしていたことを、交易などで察知した名古屋財界が外務省を通